



# 山崎区長新春対談

# スポーツジャーナリスト・ロサンゼルス五輪女子マラソン代表 増田明美さんを迎えて



▲発展途上国を支援する活動で訪問したラオスで、子どもたちと笑顔で走る増田さん



▲増田さんが司会を務め「ものすごいエネルギーを感じた」と語る区で行われた東京招致イベントの様子



▲東京オリンピック・パラリンピックやスポーツの力をテーマに対談(左は司会の山本百合子さん)



**増田明美さん**  
昭和39(1964)年、千葉県生まれ。高校在学中、長距離種目で次々に日本記録を樹立する。昭和57(1982)年にマラソンで日本記録を作り、昭和59(1984)年のロサンゼルス五輪ではメダルを期待されたが、無念の途中棄権。平成4(1992)年に引退するまでの13年間に残した記録は日本記録12回、世界記録2回更新。  
現在はスポーツジャーナリストとして執筆活動・マラソン中継の解説に携わるほか、大阪芸術大学教授を務める。また、日本障害者スポーツ協会評議員、日本ダブルダッチ協会の会長を務めるなど多方面で活躍中。

**五輪決定が  
さまざまな人の活力に**

司会 本日はスポーツジャーナリストでロサンゼルス五輪女子マラソン代表の増田明美さんをお招きしました。あけましておめでとうございます。  
増田明美(以下増田) あけましておめでとうございます。  
司会 さて、昨年9月、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まりましたね。思いを聞かせてください。  
増田 決まった瞬間うれしかったですね。私は前回の東京オリンピックが行われた1964年生まれ。当然記憶はないですが、みんなが楽しそうに当時の話をしますよね。その興奮がまた東京に来ると思うと、うれしくて若返りました(笑)。また、オリンピックが決まり6年後に向け、いろいろな人に目標ができたね。  
区長 高齢者の方が、「あと6年、自分もがんばる」と話してくれる。目標ができるのはいいことだね。

**子どもたちは身近に  
触れ、得るものがある**

区長 区内では28競技中15競技が開催される。区民の皆さんが身近に感じることができるよう、子どもたちへ見せてあげたい。前の東京オリンピックのとき、私は選手村の食堂でボーイをしていたんですよ。

**増田 週刊誌で見ましたけど、本当だったんですね(笑)。**

区長 うそは言わないよ(笑)。増田 当時を生で見たので、よろい招致の思いが強いんですね。区長 あのとき身近に見て、送り選手たちに手を振りながら自然と涙が出た。いろいろな人と仲良くなければいけないのかもしれない。自分にとって今日の、平和が一番大事という考えはあの経験があったから。何かもう一度開催し、子どもたちに何か感じ取ってもらいたいと思ったのが招致の一番の理由。

増田 小学生というのは一番感受性の高い時期。身近に触れたら、いろいろなものを吸収し、得るもの大でしょうね。  
区長 2016年招致のときは涙をのんだが、今回は飛び上がって喜びました。決まる瞬間は胃が痛くなる思いだった。  
増田 ギリギリまでわからなかったから余計だね。あの瞬間、日本中が歓喜しました。

**2020年に向け、パラリンピックを応援したい**

司会 増田さんは2012年のロンドンも取材されていますがいかがでしたか?  
増田 ロンドンでよかったのはオリンピックとパラリンピックが対等な一体感があったこと。それを体感して、日本はまだ遅れていると思いました。日本はオリンピック後、すぐにパラリンピックを。でもロンドンは全て終わってから一緒に行動しました。また、競技会場はどこも満員なんです。  
区長 私もその話を聞いたけど、驚いたね。

増田 パラリンピックのどの会場も前の席で応援するのは子ども。子どもが無料で観戦できる仕組みができています。また、子どもたちは片腕で泳ぐ選手を見て「かっこいい」と言っている。環境だけでなく、心のバリアフリーが進んでいると感じました。だから、私は6年後に向け、特にパラリンピックを応援したいです。  
区長 昨年、東京で国体と障害者スポーツ大会がありました。以前は別々の扱いだったものを、

「スポーツ祭東京」という一大の大会にした。今後の障害者スポーツのために重要なことだったと思います。私もいろんな会場に行きましたが、どこも盛り上がりだ。増田 あれは私もうれしかったです。やっと第一歩を踏み出したと思えました。  
区長 閉会式も選手の方々が、スタンドが一体となって、すごい盛り上がりだったね。日本が変わってきたね。日本がロンドンに近づいてきたと感じるのは招致のプレゼンテーションでの、佐藤真海さんのスピーチから。いい風が吹いてきているなと感じます。  
区長 佐藤さんは、昨年11月のシーサイドマラソンでもゲストで来てくれました。  
増田 参加者も多くて盛り上がりでしたね。私も参加者と話ししましたが、「江東区は応援に下町の情があつていい」と言っていました。  
区長 うれしいですね。

**五輪開催に向け江東区らしい  
のある競技環境へ**



▲スペシャルコーチとして熱く指導 ▲子どもスポーツデー2010に参加。スポーツの楽しさを伝えました

増田 エネルギーが他の場にも生かされる。こどももこのことが大事だと思います。司会 スポーツが与える力は大きいものではないでしょうか?  
増田 目標ができるのがんばれる、スポーツはそれがいい。生き方が前向きになります。スポーツから離れても、「目標を作り、それに向けて努力すること」が大事だと学べます。  
司会 周りに支えられているという気持ちも生まれてくるものですか?  
増田 スポーツをしていると、けがもあるしスランプもある。そんな時も辞めずにがんばれるのは周りのおかげ。どんな時も支えや応援があるから、自分は一歩を踏み出せます。



増田 江東区は、辰巳水泳場やビッグサイトなど競技場が多い区長 そうですね。海外の方は喜ぶますね。  
区長 日本ならではの競技場を作って、文化を発信したいと思っています。  
増田 木には安心感がありますね。競技自体は緊迫感がある中で、その中でも安心感を持てる。ぜひ実現してほしいです。  
増田 区長のセーリング部の出身選手が、国体で3位になりました。

**8年ぶりにフルマラソンに  
挑戦**

司会 最後に今年の抱負を。  
増田 東京にオリンピック・パラリンピックが来てすぐうれし。その喜びを力に変えて、今年、8年ぶりにフルマラソンに挑戦します。  
区長 すごくいい。  
増田 私ももっとパワフルでいきたいですね。走りながら元気になります。  
区長 みんなにその気持ち伝えたいね。がんばってください。  
増田 ありがとうございます。

**「人」を伝えたい**

区長 マラソンの解説聞いていますよ。専門家と見ている側の違いがわからないところを伝えてくれるので、大好きなんです。司会 見ている方も選手に親近感を持てますよね。  
増田 ありがとうございます。  
司会 取材のために、かなり足を運んでいるんですね。  
増田 はい。私は選手の前の人であると思うので、その「人」を伝えたい。だから取材をしている時間が一番楽しいです。  
区長 増田さんは他にもいろいろな活動をしているよね。  
司会 故郷のいすみ市には、ご自身の名前がついたマラソン大会もあるそうですね。  
増田 私も運営にも携わり、毎年約5,000人が参加して盛り上がりがあります。迎える側として、どんなおもてなしができるか考え、みんなと一緒にやることで

**TOKYO 2020 区内の競技場マップ** (会場名は本面下部参照)

1 バレーボール [シッティングバレーボール]  
2 自転車競技(BMX)  
3 自転車競技(トラックレース)  
4 体操 [コルポール]  
5 テニス [車いすテニス]  
6 レスリング [パワーリフティング]  
7 フェンシング、テコンドー [ボッチャ]  
8 馬術(総合馬術)  
9 ポート カヌー(スプリント) [ポート カヌー]  
10 自転車競技(マウンテンバイク)  
11 セーリング [セーリング]  
12 バドミントン [車椅子バスケットボール、車いすフェンシング]  
13 バスケットボール [車椅子バスケットボール(決勝)]  
14アーチェリー [アーチェリー]  
15 馬術(障害馬術、馬場馬術、総合馬術) [馬術]  
16 水泳(競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング) [水泳]  
17 水泳(水球)

※[ ]内はパラリンピックの競技 ※中央防波堤埋立地の⑧⑨⑩は江東区に含めています (図面等は候補ファイルより転載)

【会場名】①有明アリーナ②有明BMXコース③有明ペドドローーム④有明体操競技場⑤有明テニスの森⑥東京ビッグサイト・ホールA⑦東京ビッグサイト・ホールB⑧海の森クロスカントリーコース⑨海の森水上競技場⑩海の森マウンテンバイクコース⑪若洲オリンピックマリーナ⑫夢の島ユース・プラザ・アリーナA⑬夢の島ユース・プラザ・アリーナB⑭夢の島公園⑮夢の島競技場⑯オリンピックアクアティクスセンター⑰ウォーターポロアリーナ